

保育所における保育者と保護者の連携上の問題点 (3)

—— 聞き取り調査を通して ——

角藤智津子・清水玲子・広沢洋子
(埼玉県立衛生短期大学)

1. はじめに

第1報(第48回大会)で「保育所における保育者と保護者の連携上の問題点」についての、保育者と保護者に対する質問紙調査の結果を発表した。

そこから得られた問題点について、対象者の思いまでていねいに汲み取りたいと考え、聞き取り調査を行った。第2報、第3報(第49回大会)では、聞き取り調査から得られたことを報告する。本発表は第3報である。

2. 方法

対象：埼玉県、東京都の保育者25名、保護者24名。質問紙調査の対象者から抽出。

保育者はコミュニケーションに工夫を要する勤続10年以内の者を抽出。公立保育所保母18名、私立保育所保母7名である。

保護者の年齢は、20代2名、30代18名、40代4名の母親である。勤務形態はフルタイム17名、パートタイム5名、学生1名、家族に介護を要する者のいる無職1名であった。

方法：質問紙調査から得られたコミュニケーションに関連した7項目

- 1) 連絡帳
- 2) 父母会(保護者会)
- 3) クラス懇談会
- 4) 父母との共催行事
- 5) 慣らし保育
- 6) 保護者との関係でうれしかったこと
保育者との関係でうれしかったこと
- 7) 保護者との関係で困ったこと
保育者との関係で困ったこと

を中心に、保育者、保護者はどのようにとらえ、どのようにして欲しいと感じているかを、個別の聞き取り調査によって知る。

期間：1994年12月から1995年12月

3. 結果

1)～3)については第二報で、4)～7)については第三報で報告する。

保育者と保護者の思い

保育者	保護者
4) 父母と共催する行事 ・夕涼み会、餅つき大会を平日に行なう。 ・クッキングを年2回、平日の夜に行なう。運動会は、毎年10月10日に決めてある。 ・いくつかの行事が土曜日にある。保母は全員出勤となり、代休を取りにくく辛い。 ・運動会、生活発表会、卒園式等、保護者は参加するだけの行事のみである。 ・人形劇の会、音楽会をやっている。父母はお金を出すだけで、動くのは保母である。 ・毎月の誕生会のプレゼントは、父母会で用意する。よく見つけてくると感心するものばかりで、親のこどもへの愛情を感じる。	4) 父母と共催する行事 ・平日に行なう。母親のみ休暇を取って出席している。・商店なので、土日も休めない。平日の夜ぐらいしか都合がつかない。 ・行事は土曜日にやって欲しい。土曜日ならば父親も出席できる。 ・保育園の企画した行事に、当日、参加するのみである。保母さんに申しわけないと思うが、忙しくてこれ以上何もできない。 ・保育園とは離れて、父母会で多くの行事をやっている。どうしても休日にやることになるので、保育園の施設を使うのはむずかしく共催は無理である。

保育者と保護者の思い

保育者	保護者
5) 慣らし保育 ・個々のこどもに合わせた期間行なう。1時間ずつ増やして5日から2週間かける。1カ月かかった子もいる。こどものために、慣らし育は、必要だと思う。 ・迎えに来る人がいない場合は、やらない。 ・泣くかどうかを目安にして、期間を個別に決める。 ・緊急一時保育で、初日から通常に保育した子が、ケロッとしているのを見ると、「いないのかもしれない。」とも思う。	5) 慣らし保育 ・保育園の近くの喫茶店で時間を潰しては迎えに行き、「何のための保育園だ。」と思った。 ・慣らし保育に合わせて、採用日を変更してもらった。 ・昼寝で泣くと、迎えに来るよう職場に電話がかかってきて、仕事にならなかった。
6) 保護者との関係でうれしかったこと ・自分の保育に満足してくれているのが分かった時。 ・次々とクレームをつける保護者がいて悩んでいたが、転園した。後日、「他園に行って良さがわかった。」と言われ、涙が出た。 ・こどもを誉めたら、とても喜んでくれた。 ・母親が気さくに話しかけてくれると、信頼されているのだと実感する。こどもとの関わりよりも、親との関わりの方が重要とさえ感じる。	6) 保育者との関係でうれしかったこと ・あっと言う間にこどもを観察して「～しましょう。」と言われ感心した。 ・歩き出した頃、「今日は○歩いた。」と毎日教えてくれた。 ・担任以外のこどものことも、知っている。 ・育児経験を話してくれる。説得力がある。 ・離婚直後に、「お母さんが明るいから、こどもは大丈夫よ。」と言われ勇気が湧いた。 ・保育時間中に美容院に行ったのだが、「お母さんきれいね。」と言ってくれた。
7) 保護者との関係で困ったこと ・「自分にまちがいはない。」と思いこんでいるので、話し合いにならない。 ・思っていることを言ってくれない。保母に不手際があった時に、不満をまとめて言う。 ・保母の勤務の大変さをわかっていない。 ・送迎をする祖母と母親の仲が悪く、こどものことを、どちらにも相談しにくい。 ・異年齢の合同保育を理解できず、「遅れているから0歳と一緒にか。」と抗議された。 ・合奏の担当楽器に、口をはさむ。	7) 保育者との関係で困ったこと ・「私はこうして育てました。」と20年前の自分の経験を押しつけてくる。 ・離乳食が遅れていたなら、「幼児食にしろ。」と言われ食べなくて困った。 ・送迎の時、話かけてくれない。嫌われているのか、怒っているのかと不安になる。 ・お迎えが遅くなり、嫌みを言われた。 ・土曜日のお迎えの時、保母さんがコートを着てカバンを持って、帰る準備万端で保育していた。

4. 考察

同じ条件の下でも、保護者の状況により要望は異なってくる。それ故、どんなに良い保育をしていようと、保育者と保護者の合意がないものは、誤解、無理解を生んでいることがわかる。連携を円滑にするためには、有効な手段を用意することが必要である。本報告で取り上げた

手段についても、取り入れるかどうかの検討を含め、その内容についても、実情に即した更なる工夫を要す。

人間と人間の理解のためには、多くの有効な手段に加え、相手に誠意をもって接しようとする人間性が重要である。